

ANNUAL REPORT 2025

# 2025年度 活動報告書

誰かのためになるものを、  
創り続けよう。



特定非営利活動法人こどもの教育を支援する会

2026年度通常総会開催報告 兼

発行:2026年9月

各章は、大きな見出し・要点・くわしい説明の順に並んでいます。

## 第1章 この1年で、成し遂げたこと

## 第2章 代表挨拶

## 第3章 法人紹介 | 学生が始めた活動は、7年目を迎えた。

## 第4章 「開かれた関わり」と「特定の支援」の両立を目指して

## 第5章 利用者の声 | 「味方がいる」という安心を

## 第6章 こども食堂を訪ねて

## 第7章 通常総会開催報告 | わずかな黒字を、3期連続で維持。

## 第8章 今後の目標 | 2026年度、次の一步へ。

## 第9章 教育ニュース | 不登校353,970人、12年連続増。

## 第10章 【予告】新連載コラム | 愛着障害

## 第11章 マンスリーサポーター募集

## 第12章 終わりに

### この報告書で使っている表記

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 大きな見出し  | その章でいちばん伝えたいことです。                 |
| 太い線の下の方 | 見出しの内容を、数行にまとめた要点です。              |
| ※ではじまる文 | 補足や注釈です。読み飛ばしても本文の理解に影響しません。      |
| 図表      | 色の違いだけでなく、模様と数値・項目名を図の中に直接書いています。 |

# この1年で、成し遂げたこと

相談の輪が広がり、新しい事業が動き出した年でした。  
2025年度の成果を、3つに絞ってお伝えします。

## 成果 1

くわしくは7ページ



# 1,323人

 LINEでつながった子ども

前の年から322人、32%増えました。

だれでも無料・匿名で相談できる場として、少しずつ知られてきています。

## 成果 2

くわしくは7ページ



# 14,939通

 年間のやり取り

2年続けて1万通を超え、これまでで最も多くなりました。

ボランティアが原則24時間以内に返す体制を保っています。

## 成果 3

くわしくは8ページ



## 一人ひとりのペースで学べる支援へ。iStairs、始動。

サービス設計、講師マニュアル、保護者向けサポート体制の整備が終わりました。2026年度の有償モニター「0期」へ進みます。

## 代表挨拶



子どもたちは、生まれる環境を選べない。だからこそ、頑張れば報われる環境を用意したい。

日頃より、NPO法人こどもの教育を支援する会の活動にご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

代表理事 石橋 尚眞

学生時代に立ち上げた当法人も、2026年で活動7年目を迎えました。設立の原点にあるのは、「子どもたちは生まれる環境を選べない」という現実への強い問題意識です。厚生労働省の調査では、日本の子どもの相対的貧困率は11.0%、約9人に1人が経済的な困難を抱えているとされています。この状況は経済的な貧困だけでなく、自己肯定感や将来への希望を持ちにくくなる「心理的な貧困」にもつながります。私たちは、この負のループを断ち切り、頑張れば報われる環境を子どもたちに用意したいという思いから活動を続けてきました。

学習支援を軸に据えているのは、それが子どもたちの未来を切り拓く土台になると考えているからです。活動を始めた当初はコロナ禍のただ中にあり、対面に代わってオンラインでの学習・居場所支援が広がりました。この流れの中で、より多くの子どもたちに気軽に頼ってもらえる場所を目指し、LINEでの質問・相談対応「paraplu」を軸に据えました。おかげさまで、paraplu登録者数は1,323人（前年比32%増）、年間のやり取りは14,939通と、2年連続で1万件を超える過去最高の実績となりました。

一方で、子どもたちが抱える課題は一つの支援だけで解決できるほど単純ではありません。今後は子どもたち本人だけでなく保護者の皆さまへの情報発信も強化し、感覚や経験則だけに頼らず、心理学・教育学の知見に基づいたより良い関わり方を追求していきます。不登校の子どもたちやその保護者への支援にも力を入れ、多角的な視点から子どもたちの成長を支えてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 こどもの教育を支援する会

代表理事 石橋 尚眞

## 学生が始めた活動は、7年目を迎えた。

2020年、学生の手で始まった小さな取り組みが、いま2つの事業になりました。

法人名

特定非営利活動法人  
こどもの教育を支援する会

設立

2020年(令和2年)3月2日  
2026年で活動7年目

ミッション

誰かのためになるものを  
創り続けよう。

役員

理事:石橋尚真・高木祥子・梅野寛崇  
監事:鶴澤浩行

当法人は、学生時代の代表が「子どもたちは生まれる環境を選べない」という問題意識から立ち上げた団体です。日本の子どもの相対的貧困率は11.0%<sup>1</sup>、約9人に1人が経済的な困難を抱えています。経済的な貧困は、自己肯定感や将来への希望を持ちにくくなる「心理的な貧困」にもつながります。私たちは学習支援を軸に、この負のループを断ち切ることを目指しています。<sup>1</sup>厚生労働省「2025(令和7)年 国民生活基礎調査の概況」による

活動の始まりはコロナ禍でした。対面に代わってオンラインでの学習・居場所支援が広がった時期に、より多くの子どもたちが気軽に頼れる場所として、LINEでの質問・相談対応「paraplu」を立ち上げました。その後、より個別のニーズに応える学習支援「iStairs」の準備を進め、2つの事業が並び立つかたちになりました。

### 2つの事業



#### 開かれた関わり

小学生から高校生までを対象にした、LINEでの無料・匿名の質問・相談対応。だれでも入れる間口の広さを大事にしています。



#### 特定の支援

不登校や行き渋りのある小学生・中学生に向けた、オンラインの伴走型学習支援。2026年度に有償モニターを始めます。

# 「開かれた関わり」と 「特定の支援」の両立を目指して

入口が狭すぎれば、支援は届きません。一方で、状況に応じた支援のかたちも欠かせません。この相反する2つを並行して存在させることを、私たちは目指しています。



## 開かれた関わり

だれでも、いつでも入れること。無料・匿名で、名前も学校も言わなくていい。まず頼れる先があることを大事にします。

この考え方にもとづく事業



## 特定の支援

その子の状況に合わせて、深く関わること。階段の高さも長さも一人ひとり違うことを前提に、伴走します。保護者もサポートするのが特徴です。

この考え方にもとづく事業



### 2つの違い

#### paraplu | 開かれた関わり

対象      だれでも(小学生～高校生)

関わり方      LINEで勉強の質問・悩み相談に答える

費用      無料・匿名

#### iStairs | 特定の支援

対象      不登校・行き渋りのある小中学生

関わり方      継続的に伴走し、学習を組み立てる

費用      有償(2026年度モニターより)

開かれた関わり



## LINEでつながる子どもが、1,323人に。

年間14,939通。2年連続で1万通を超え、過去最高になりました。

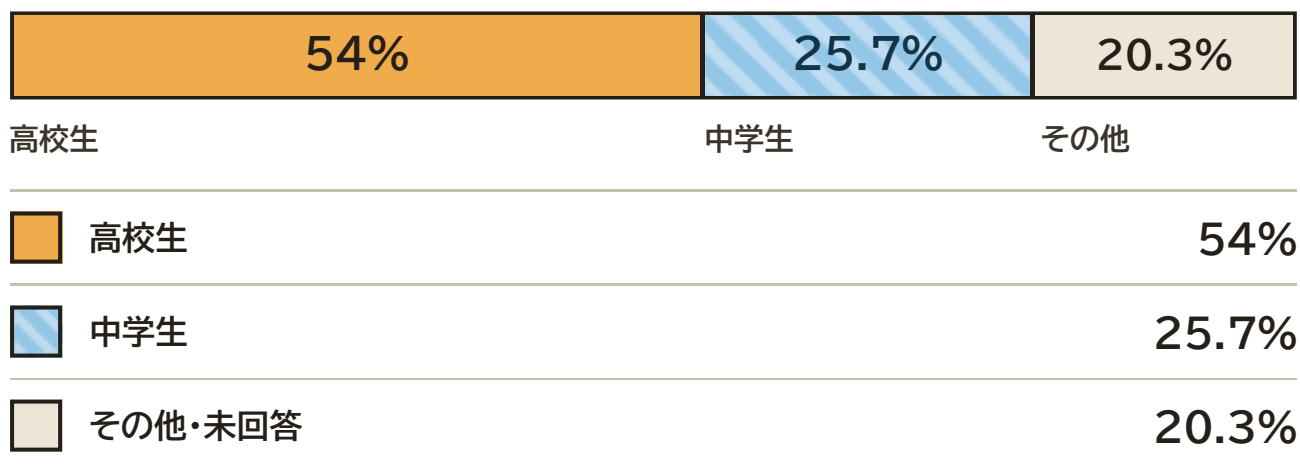
誰でも無料・匿名で相談できる、間口の広い居場所です。勉強のわからないところから、進路や気持ちの相談まで。ボランティアが原則24時間以内に回答する体制を保っています。

### 友だち登録者数の変化



※前の年から322人(32%)増えました。

### 利用者の内訳



※高校生のうち、高校3年生が21.1%で最も多くなっています。テスト前や受験期に利用が集中する傾向があります。

### 名前の由来

paraplu(パラプル)はオランダ語で「傘」という意味です。子どもたちを守る場所、子どもたちが思わず入りたくなる場所であるように。子どもの幸福度が世界一とされる国、オランダにちなんで名付けました。

特定の支援



## 一人ひとりのペースで学べる支援へ。 iStairs、始動。

2026年度の有償モニター「0期」に向け、サービス設計・講師マニュアル・保護者向けサポート体制を整備しました。

不登校や行き渋りのある小学生・中学生という、より個別のニーズに応える伴走型の支援です。学習の遅れを取り戻すことだけを目的にせず、その子のペースに合わせて学び方そのものを一緒に組み立てます。

### 昨年度に整備が完了したもの

#### 整備完了 1

不登校の子どもたちに  
併せたサービス設計

#### 整備完了 2

医学心理的知見を  
含んだ講師マニュアル

#### 整備完了 3

保護者向け  
サポート体制

#### 次の一歩

## 2026年度「0期」

有償モニター(3世帯限定)として実施予定です。実際に使っていただきながら、支援のかたちを整えていきます。

#### 名前の由来

子どもによって、階段の方向も高さも長さも違います。一人ひとりが、自分のペースで階段を登っていけるように。そんな思いを込めた名前です。

開かれた関わり



## 「開かれた関わり」として。 勉強だけでなく、 「味方がいる」という安心を。

parapluをよく利用している方を対象にユーザーアンケートを実施。その一部をご紹介します。

### 声から見たこと 1

塾にも通えず、周りにも頼りづらい中で、唯一頼れる場所。

### 声から見たこと 2

受験の孤独のなかに、「強い味方」がいる。

### 声から見たこと 3

どこにも相談できない内容に真摯に向き合ってくれる。

学力や進路のサポートに加えて、心の支えとしての価値が評価されました。学習支援と伴走支援の両方の面を持つサービスであることが確認できました。次のページから、寄せられた声の一部をそのまま掲載します。

※アンケートは2025年3月から10月末にかけて、paraplu利用経験のある方を対象に自由記述で実施しました。

## 利用者の声(抜粋)(1／2)

“

大阪府・男性

高校受験前、様々な心配事をLINEを通して誰かに話すことで気持ち  
がとても楽になって勉強に集中できた。勉強の仕方など難しいであ  
ろう質問にもしっかり答えてくださって本当に心強かった。

“

青森県・女性

周りは塾に通っていたが、私は通えず、先生に質問しようにも中々気  
を使って質問できなかった。一人で何とかしないとと思っていた中  
で、このサービスに辿り着いた。誰かに助けを求めることが苦手な私  
にとってとても大きい存在だった。勉強を詳しく教えてくれたのはも  
ちろん、受験で孤独感を感じる時にも先生の前向きな励ましが「強い  
味方がいる」との自信につながった。

## 利用者の声(抜粋)(2/2)

“

東京都・女性

3年以上お世話になっている。幅広い分野に関する質問ができ、学校の先生よりも詳しい説明をしてくれることもある。塾に通えず、わからない問題があったら自分で調べるしかない中で、どうしてもわからない問題が出てきたときにとても助かっている。キャリアの相談も受け付けてくれて、将来の見通しがついたこともあった。高校、大学の受験生活において、LINE質問相談対応の存在はとても大きく、出会っていなかったら全然違ったと思う。

“

埼玉県・男性

友達とのトラブルがあった時、親にも先生にも相談できなかった。でも、普段から勉強の相談をしているparapluで相談してみたら、すごく真剣に対応してくれた。普段あまり大人と関わる機会がないので、こういう考え方もあるんだ、こう対応すればいいんだと知れて、気が楽になったし、相談してみて本当によかったと思っている。

いずれの声も、原文のまま掲載しています。勉強の内容そのものよりも、「聞ける相手がいる」「一人ではない」という点にふれた記述が多く見られました。

## ごはんを囲む場所に、学びの土台があった。

2026年3月、新宿エリアのこども食堂を訪ねました。オンライン支援だけでは見えないものを確かめるための一日です。



※写真:「ごはんと学び for 東京キッズ」の様子(2026年3月)

新宿エリアで活動する「Tokyo Kids Supporter(東京キッズサポーター)」を訪問しました。2026年3月、若松地域センター・専福寺で「ごはんと学び for 東京キッズ」を運営している団体です。

スタッフと食事を囲みリラックスして過ごす子どもたちの様子が印象的でした。オンライン学習支援も「安心して自分を出せる場所」があってこそ深い支援として活きることを実感しました。

リアルな居場所とオンライン支援、それぞれの立場からの「顔の見える関係づくり」の第一歩として実施したものです。

### 訪問の記録

時期

**2026年3月**

訪問先

**Tokyo Kids Supporter  
(東京キッズサポーター)**

場所

**若松地域センター・専福寺**

ホームページ

<https://tks21.jimdofree.com>

# 通常総会で、 4つの議案が可決。

2026年6月25日、「2026年度通常総会」を開催しました。決議された議案は以下の4件です。

## 決議事項

### 01 第一号議案:昨年度事業報告

### 02 第二号議案:昨年度決算報告

### 03 第三号議案:2026年度役員選出

理事 石橋尚眞・高木祥子・梅野寛崇

監事 鵜澤浩行

※全員再任

※のちの理事会において、代表理事を石橋尚眞とする議案が可決されました。

### 04 第四号議案:2026年度会費

入会金

**2,000円**

昨年度比 1,000円の増額

年会費

**5,000円**

昨年度より据え置き

## わずかな黒字を、 3期連続で維持。

昨年度の会計について、経費削減によりわずかな黒字を3期連続で維持。一方、役員借入金390,846円という課題も残りました。

### ↑ 成果

**+39,119円**

当期増減(黒字)

経費削減により、わずかな黒字を3期連続で維持しました。1万円の寄付を新たにいただきました。

### ↓ 課題

**▲390,846円**

役員借入金(マイナス)

代表が立て替えている借入金が、次の年度に残ります。年会費の収入も減少しました。

## 今後の財政方針

課題を踏まえ、次の3つに取り組みます。

### 方針 1

マンスリーサポーター  
獲得

### 方針 2

寄付の継続獲得

### 方針 3

iStairsの収益化

# 2026年度、 次の一歩へ。

LINEをもっと使いやすく。支援をもっと安全に。iStairsを実際の支援へ。そして、支える人にとっても「居場所」に。

## 目標 1

### LINEをもっと使いやすく

リッチメニュー拡充、ユーザビリティ改善、LINE経由の決済連携、ユーザー属性管理の適正化

## 目標 2

### 相談支援をもっと安全に

ボランティア稼働率向上策の導入、深刻な相談への心理士を交えた対応、マニュアル見直しによる安全な相談体制の構築

## 目標 3

### iStairs、0期スタート

2026年度「0期」を有償モニター（3世帯限定）で実施します。

## 目標 4

### 支える人にとっても「居場所」へ

タスク制（アジャイル型）への移行、AI（Claude）導入による業務効率化、法人内交流を増やし働く人にとっても「居場所」に

# 不登校353,970人、 12年連続増。

中学生では約15人に1人です。同じ年、高校の授業料支援の所得制限は撤廃されました。「無償化」が進むなかで、学び方と居場所の選択肢はどこまで広がるのでしょうか。

## 1 | 不登校の増加傾向

# 353,970人

全国の不登校児童生徒数  
(過去最多・12年連続で増加)

文部科学省の令和6年度調査によると、全国の不登校児童生徒数は過去最多の353,970人(小学校137,704人・中学校216,266人)にのぼり、12年連続の増加となった。増加率自体は前年度より鈍化しているものの、中学生では約15人に1人、小学生では約44人に1人が不登校の状態にある。

学業面の遅れよりも「学校生活へのやる気が出ない」「生活リズムの不調」「不安・抑うつ」といった心身の状態が背景にあるとされ、学習支援と並行した精神的な伴走支援の必要性が指摘されている。

## 2 | 教育費の負担軽減をめぐる法改正

# 45万7,200円

高校授業料支援金の年間支給上限  
(2026年4月から)

2026年4月、高等学校等就学支援金制度の改正法が施行され、私立高校の授業料支援について所得制限が撤廃された。公立・私立を問わず全世帯が対象に。文部科学省の試算では新たに約80万人の生徒が支給拡充の対象になる見込み。

一方で、支援対象はあくまで授業料のみであり、入学金・教材費・制服代・通学費などは引き続き家庭負担となる点には留意が必要。「無償化」が進む中でも、学び方や居場所の選択肢を広げる支援の重要性は変わらない。

## 新連載予告

2026年10月スタート／全10回シリーズ(予定)

# 愛着障害

相手が変わっても、環境が変わっても。人間関係でいつも同じところにつまずいてしまう。その背景を「愛着(アタッチメント)」という視点からたどる連載を始めます。

## 「またやってしまった……」

夜中、静まり返った部屋でスマホの画面を見つめながら、激しい後悔と自己嫌悪に押しつぶされそうになったことはありませんか。

- 相手からの返信が来ないことに耐え切れず、追いLINEを連投したあげく、パニックになって「もういいです、ブロックします」と自分から関係を叩き割ってしまう
- 相手に嫌われたくない一心で頼みごとを断れず、都合よく扱われた末にあっさり捨てられてしまう
- 「どうせ自分なんて裏切られる」「私なんて必要とされていない」と何でもネガティブに捉えてしまい、友人関係や職場の人間関係にまで支障が出てしまう
- 相手が本気になって深く付き合おうとしてきた途端、急に気持ちが覚めて逃げ出したくなったり、連絡を無視して音信不通になってしまう
- 不満があってもその場ではへらへら笑って取り繕うのに、限界が来ると突然大爆発して二度と修復できないレベルで関係を破壊する

「次こそは絶対にうまくやる」と心に誓ったはずなのに、相手が変わっても、環境が変わっても気づけばいつも同じ関係性のトラブルを繰り返している。

あるいはご自身のことではなくても、「うちの子、ちょっと注意されただけでなんであんなに激しく怒るんだろう」「なんで急に赤ちゃんみたいに甘えてきたり、冷たく突っぱねたりするんだろう」と、お子さんの心とした言動や接し方に戸惑った経験がある保護者の方もいるかもしれません。

もしあなたや、あなたのご家族に思い当たる節があるなら、まず最初にお伝えしたいことがあります。

それは、あなたの「性格の悪さ」でもなければ、誰かの「愛着不足」や「意志の弱さ」でもありません。

あなたや、あなたの大切な人の心の中で、無意識に作動している「愛着(アタッチメント)」の問題が原因かもしれないのです。

## この連載で考えていくこと

Q そもそも、「愛着」とは何なのか。

Q なぜ、同じような人間関係を繰り返してしまうのか。

Q 子どもの言動には、どのような意味があるのか。

### シリーズ案内

愛着(アタッチメント)を考える

配信開始(予定)

**10月**

2026年 START予定

回数(予定)

**全10回**

シリーズ連載の予定

はじめの2回

**無料**

どなたでも読めます

サポーター

マンスリーサポーターなら、全10回(予定)を無料で購読できます。

note

noteでも配信予定です。1話からの単発購入もできる見込みです。

## 毎月の支援が、 活動の土台になる。

paraplu・iStairsを続けていくために、マンスリーサポーターの輪を広げます。

当法人としてはじめての取り組みとして、継続的にご支援いただく「マンスリーサポーター」の仕組みを整えました。毎月のご支援に加え、今回のみのご寄付も同じ申込ページから受け付けます。

### 寄付のかたち

☒ 毎月☐ 今回のみ

### お支払い方法

#### ●クレジットカード

☐ Visa☐ Mastercard☐ JCB☐ AMEX☐ Diners Club☐ Discover

#### ●銀行振込

寄付額(6種類からお選びいただけます)

☐ 500円☐ 1,000円☐ 2,000円☐ 3,000円☐ 5,000円☐ 10,000円

金額にかかわらず、連載コラム「愛着(アタッチメント)を考える」をお読みいただけます。あわせて、活動報告書をお送りします。

※はじめての取り組みのため、寄付額やお礼の内容は今後変更となる場合があります。

寄付いただける方はこちらから↓



<https://syncable.biz/associate/educ4ch#associate-abs>

## この一年を、 支えてくださった皆さまへ。

2026年度は、iStairsのモニター開始や保護者への情報発信の強化など、新しい取り組みが始まります。

この一年間、paraplu・iStairsの活動を通じて多くの子どもたちと関わることができたのは、ご支援くださる寄付者の皆さま、そして現場を支えてくださるボランティアの皆さまのおかげです。心より御礼申し上げます。

保護者への情報発信の一つとして、Xでは子育てに関する最新のニュースや、子どもの学びを支えるうえで知っておきたい知識の発信を始める予定です。

引き続き変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最新の活動は、こちらから

ホームページ



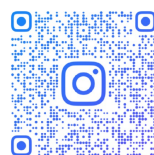
<https://educ4ch.org/>

paraplu(LINE)



<https://lin.ee/pHcIakA>

Instagram



@npo\_educ4ch

X(旧Twitter)



@npo\_educ4ch

## 誰かのためになるものを、 創り続けよう。